



香美市立美術館では、昭和のこどもたち展として、人形作家・石井美千子の作品展を開催します。

石井美千子の作り出す人形の世界は、記憶の宝物と
言われている昭和の時代を
よみがえらせる魔法の力を
持っています。昭和30年代
の人々の暮らしを鮮やかに
表現した展示は、同じ時代
を生き抜いてきた人々に懐
かしさとともに、生きる勇

昭和のこどもたち

—人形作家・石井美千子 作品展—

7月31日(木)～8月24日(日)

気と活力を与えてくれま
す。そして、現代に生きる
私たちに向けて、物質的な
豊かさや引き換えに失って
しまった心の豊かさとは何
かを問いかけます。
終戦から立ち直る途上に
ある時代、立ち並ぶ粗末な
家の前に、隣近所や家族が
勢ぞろいした作品・嫁ぐ日
の光景は、胸に迫るものが
あります。こども
も同人大勢でけ
んかをしたり、
夢中で遊んだり
する様子も、生
き生きと表現さ
れています。み
んな経済的には
貧しかったけれ
ど、一生懸命生
きてきた時代が
よみがえってき
ます。
人形は本当の
人間ではありま
せんが、人形を
通してあの頃の



▲とつくみあい

吉井勇記念館だより

星祭(旧・七夕まつり)

吉井勇がはじめて猪野々
を訪れたのは旧暦の七夕の
日。色とりどりの短冊が風
に揺れ、その風情は捨てが
たいものだったといえます。
星祭では、当時、勇が見
た昔ながらの七夕飾りを、
猪野々活性化委員会、猪
野々老人クラブの協力で再
現します。市内の学生が書
いた短冊も一緒に飾ります。
来館いただいた際に、短
冊に願い事を書いて飾って
いた、たくさんもできます。
【期間】8月18日(月)～
8月23日(土)
※8月23日の18時より、記
念館付近の水路にて松明を
灯します。記念館や勇の庵
『溪鬼荘』もライトアップ
を行い、幻想的な夜をお楽
しみにいただけます。無料送
迎バスあり。要予約。
【場所】吉井勇記念館周辺

田舎料理バイキング

星祭最終日に、猪野々活
性化委員会の主催で地域イ
ベントを開催します。田舎
料理のバイキングや屋台、
地場産品の販売等を行います。
記念館の夜間開館や溪
鬼荘ライトアップと合わせ
てお楽しみください。
【日時】
8月23日(土) 17時～
【田舎料理バイキング】
18時～ ※要予約
大人千円・小学生以下500円
【送迎バス】 ※要予約
香美市役所本庁舎より、市
役所香北支所前経由。
行き 16時発
(香北支所前16時20分)
帰り 19時30分発
【協力】婦人会・班長会

◆問い合わせ先 吉井勇記念館 ☎58・2220

香美市文芸



◆一般投稿作品◆ 広報委員会 選

- ツバメ来る巢の壊されていて哀し 小野寺朱実
- 落人の里にも薫る柚子の花 森本 純喜
- 苗代の一つ一つに宿る月 森本 幸美
- 絵手紙の青あざやかに初鯉 相澤 睦子
- 名の由来わからぬままにならずな咲く 都築 忠義
- この家と共に老いゆき菖蒲葺く 上池 児未
- 黒光りして古民家の床涼し 千頭 野草
- 茄子に打つ杭の震動雨となる 福留 ともり
- ほのかなる小夏の花の香る庭 有澤 春江
- 蛭袋ぼんやり灯りて孫の手に 楮佐古きよ
- 川底の花藻揺らして鍛洗う 高野 和一
- 夕昔や一夜かぎりの花明かり 三谷 誠郎
- 十葉の吊されてある軒端かな 岡田美代子
- 絵屏風に風を通すや土用入 山崎 貴子
- 古里の移住夫婦の田植かな 山崎 寿美
- 花ぐもり院の朝風呂ばかばかと 田嶋小恵子
- ダム湖辺に桜咲きしや水もらい 門脇 千代
- ジャム作り同じ梅でも色違い 坂本美智子
- ◆美良布俳句会◆
- 元親の読めぬ古文書汗ばみぬ 岡本かほる
- 逝く友を誘いゆくや初螢 明石ゆきゑ
- 鍋釜も地下足袋も干し梅雨晴間 北村 幸子
- 後れ毛の濡るる足場に洩うちわ 北村 里子

- 白神の空押し上げて山毛榎若葉 小野川純子
- 螢飛ぶ齡を忘れ娘と母に 前田 芳子
- 合歓の花ふと口遊む子守唄 中内ゆかり
- 村寂れ花ねむにダム遺跡めき 竹内 ろ草
- ◆かがみ野俳句会◆
- 縁談の調ふ兆し新茶汲む 佐竹 洋子
- 父の日や仏間の夫に酒供へ 佐藤 幸
- 十葉や故郷の廃家囲み咲く 利根 弘子
- 清流に命みなざる鮎の群 古川 信子
- 切り花のごと包まれし紫蘇を買ふ 小松 愛子
- どの彩も雨に似合ひし額の花 中澤 美晴
- 今年こそ捨てるかと決めて更衣 森本 健代
- 照り降りて笑みの零るる七変化 山崎 鈴子
- のぼりくる泡は一途にソーダ水 吉田 芳
- ◆かほく俳句会◆
- 枇杷の実に伸ばしきつたる腕若し 乾 真紀子
- 何となく急かさる齡梅雨曇り 奥宮さとみ
- 梨園は緑の檻や袋かけ 久保内鏡子
- 田を植えて水口に石定まれり 黒岩千英子
- 風呂焚きの薪に「ついで」を覚えけり 小松 隆之
- 丸き背や天道虫も祖母の背も 小松 完
- 谷出水棚田を守る石ひとつ 小松 昇
- 師の書なる歌碑葉桜の道にあり 杉山 春萌
- 万緑や無一物即無尺蔵 野村 里史
- 心経に多き無の字や梅雨出 前田 欣一
- 五月雨の音を愉しむ日もありぬ 前田 智
- 紫陽花の足らざる色のなく咲けり 間崎 和代
- 田植済み風かがやかに吹き渡る 森本 之子
- 風の出で田の萍の片寄りぬ 山崎かずみ
- 柚子の花咲き杉の枝打たれをり 山中 晶子

早乙女の年年背ナ丸くなり 山中 瑞輝
大屋根を越ゆる勢ひの柿若葉 山中 明石

◆土佐山田町俳句会◆
身二つになりぬ実家より大西瓜 明石 蕪生
藤椅子に国事憂ひて何もせず 大石 邦男
時の日も遅れぎみなる路線バス 橋本 昭和
こぼれつつ暮れ残りたる沙羅の花 前田 小夜
梅雨なれば仏足石を見たるのみ 前田美智子
石仏すこし歪んで樹雨ふる 安丸 慎子
伝説の安徳帝陵夏木立 森田 菊恵
いつぞやの新茶娘も出酒しに 川谷 泰山
ダリヤ咲き初恋の女思い出す 森田 貞男
蜜蜂の羽音がつつむ朝の畑 笹岡 英世
棚田千枚水で繋がる鴨足草 榎谷 雅道
町はまだ眠りの中の夏つばめ 田村 一翠

◆今月のキラリ◆
この家と共に老いゆき菖蒲葺く
菖蒲葺くは、端午の節句に菖蒲の葉を軒に挿して、邪気や悪霊を払う風習。永年住み慣れたこの家の家風を愛で、平穩を思うのである。

俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。住所、氏名、電話番号を明記してください。
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

投稿先 総務課内広報委員会事務局 俳句・短歌 係
〒782-18501(住所記載不要) FAX 53・5958